

嶋満神社便り

平成二十五年十一月号（第九号）

発行 嶋満神社奉賛会

おしあま

凡海郷伝説 再び

めつきり秋らしくなつてまいりましたが、奉賛会々員の皆様方にはご健勝でお過ごしのこととお喜び申し上げます。

さて皆様方は、昨年十月に神社鳥居脇に設置された当社の由来看板をお読みになられたでしょうか？

いわく、「その昔、当社のある小山は長谷山の岬であつたが・・・云々」

つまり浮島の小山は昔、長谷山と地続きの岬だったということですよ。

その「ネタ元」になる記事は大正十二年発行の「新舞鶴案内」にあり、さらにそのまた「ネタ元」は明治四十四年発行の「新舞鶴案内記」に載っています。そこには、

「この山は長谷山の岬であつたが、地殻変動によつて孤島となつた。」とあります。

つまり、大地震か何かで岬の中ほどが海に沈み、先つちよが島として残つたということですよ。

ほんまかいな。

しかし、この小山を、神様をおまつりする神聖な場所として仕立てあげるには、こういうお話はうってつけだったでしょうね。

ところでこのお話の本当の「ネタ元」はまだあります。あの、冠島ですよ。

大昔、凡海郷（今の舞鶴周辺）で大地震が三日三晩続き、陸地がごとごとく海に沈み、残つた高い山の峰が「冠島」と「杓島」である・・・。

冠島は地元の漁師さんたちの大事な信仰の場所です。ここを神聖化するにはこのくらい大きなお話が必要だったのでしょね。

このお話には当然考古学会も注目し、昭和五十年代には冠島周辺で京都大学のチームにより、音波探査が行われたそうです。しかし結果はそのような陥没地震を伴う大きな地殻変動はなかつたということでした。（元郷土資料館長、高橋卓郎先生談）

これで話は一件落着・・・、それでは面白くありませんよね。

さてみなさんはこの写真をどう見られますか？



数年前に舞鶴湾沖で見つかった「古代遺跡のような海底地形」です。沖縄近海にもダイバーが見つけたもつと大がかりな、そう、メキシコのテオティワカン遺跡のような地形があり、一時話題になりましたね。詳細は不明のまま、「このような地形は自然にもでき得る」という説もあり、その後真相解明には至っていないようです。

昭和五十年代の調査よりも、今ならもつと最新の機器で詳細な探査ができるかも知れない。もしかして・・・。

誰でも思うことですし、第一ロマンがあつて、凡海郷伝説は本当であつてほしいという気持ちが大いでしょう。じゃあ、我が方の、長谷山の岬が沈んで浮島が残るような大がかりな地震は本当にあつたのか？

それは、当浮島の八幡さんを信じる皆様のお心次第、といったところでこのお話を終えたいと思います。

最後までお付き合いいただき、ありがとうございます。